



# LIVES MATTER

# HARDCORE CUSTOM

#gracecab  
#hogs  
#harleydavidson  
#jaguarfpace

## 姿形だけではない カスタムの追求の行きつく先へ

20インチオーバーのカスタムカルチャーが日本でも浸透してすでに4半世紀以上が経過。当然トレンドの波も乱高下しながらも、ずっとブレずにアメリカで誕生したカルチャーに共感、探求、実践を続けるコアなファンは今もって尚、さらに自分自身を磨き続けている。それはクルマやモーターサイクルのカスタムという平面的な側面だけでなく、これまでの自分自身と生き方そのものを反映させ、それらを乗具に表現するという見ただけでは語れない奥深いもの。

特に、日本でも多くの人を虜にした一部の黒人が実践するスタイルは、ローライダーを中心に固有のスタイルを主張。Slow & Lowという概念を覆すハードなハイドロシステムによるホッピングや、美しいグラフィックペイント、アイデンティティをそのまま反映させたミューラルなど、超絶的な個性の主張はあらゆる分野にも広がりをみせていた。

ハーレーダビッドソンについてもバガーやヴィクラとは一線を画すスタイルはHOGGと呼ばれ、日本でもかなり以前からこのスタイルの先人が地道に活動をしていることから、国内のハーレーのシーンでも徐々に認知されてきているものの、本国のコミュニティーに入り込み、その

思想まで共有する人はまだまだ限られた存在だろう。そんな先人達の側で過ごしながら、GRACE CABのスタッフとして長年カスタムのシーンを影で支えている中村氏は、それまで吸収してきたものを徐々に実践へと移している。

10年ほど前に創設したXNOS C.C. (クロノスカークラブ) のOGメンバーでもあり、当時から30インチオーバーのビッグリムスタイルを実践してきた中村氏は、今年に入って念願だったハーレーダビッドソンを購入。5,000円限定の105周年記念モデルをベースに、着々とカスタムを追加しており、まだまだその道半ばとはいえ、すでに8人の仲間とともにMC (モーターサイクルクラブ) も創設して活発な活動をしている。

このHOGGのカスタムに関しては、吸排気系はもちろんのこと、エンジンのチューンを軸に凄まじいカスタムが投入されたものも少なくないが、肝心なのはその内容ではなく、どう乗りこなすかという部分であり、そこに重点を置いた思想のモーターサイクルもこれから追加していく予定とのこと。ローライダーのホッピングにも通じるストリート

での華麗な乗りこなしこそがHOGGの醍醐味でもあり、それをこのFLSTCでどのように表現していくのか今後の動向にも注目したいところ。

当然クルマの方も抜きかりなく、誰もを驚かせるジャガーのF-PACEというベースのチョイスもまた、中村氏のセンスが光るところといえるだろう。26インチのゴールドリムは、FORGIATOのRDB-M。あくまでもスマートに収めるために、カタログラインナップには存在しない9Jをスペシャルオーダーしている。カラーはストックの深いグリーンで、各部のクロームはブラックアウトするなど、最小限の手数ながらもツボはしっかりと押さえたカスタムを投入しているあたりもさすがである。

カッコいいカタチだけの追求からは到底なし得ない存在こそ、カスタムが目指す最終地点でもあり、10年以上のキャリアを持ったオーナー自身のこれまでの生き方そのものが投影されようとしているこの2台。カスタムの手数や手法なども重要かもしれないが、やはり、あくまでも主役は乗り手ということを改めて思い知らされる。

text & photographs by MASAHITO HAYASHI special thanks to GRACE CAB www.gracecab.jp 0668-35-7790 owner : YOHEI NAKAMURA from GRACE CAB < AICHI >

**2008 HARLEY DAVIDSON FLSTC 105th Anniversary**  
**2017 JAGUAR F-PACE**



**2008 HARLEY DAVIDSON FLSTC 105th Anniversary**  
**2017 JAGUAR F-PACE**

**2008 HARLEY DAVIDSON FLSTC 105th Anniversary**

この105周年記念モデルのカラーリングをそのまま生かしたスタイルのFLSTC。ヘリテージソフテイルクラシックは、大型のウィンドシールドが備わるクルーザー。このスタイルの特徴でもあるハンドルは、緩やかな弧を描いたBig Daddy製18インチタイプをセットして、グリップは現在では入手困難なOGパーツをチョイス。Headwinds製エクステンドヘッドライトベゼル、フォグランプを備え、フロントフォークカバー&ブーツはArlen Ness製のフェイス周り。ホイールはPerformance Machine製でフロント21インチ、リア18インチ。同デザインのブレーキローターやベルトプリーセ、エアクリナーやフットボード、各ペダル類やシフトリンケージなども同社製で揃える。マフラーとサスペンションは、このスタイルをいち早く日本にも取り入れ、現在でもシーンの先端で発信し続けるATTRACT CUSTOMZのオリジナルパーツを採用する。トルクフルなハーレーのエンジンは、今後馬力アップのためのチューンを予定しており、これらのメニューはやはり経験豊富な同ショップが誇るアドバンテージの中のひとつでもあり、攻撃的なライディングには欠かせないメニューともいえる。



**HARDCORE CUSTOM  
LIVES MATTER**

**2017 JAGUAR F-PACE**

長年ビッグリムのシーンに携わるGRACE CABの中村氏は、最初の愛車として選んだのは意外にもトラックのC1500。その後ダッジラムに32インチを履かせる。そして次の一台を模索する中で、ようやく白羽の矢を立てたのがこのジャガーF-PACEだった。ハイエンドメーカーによるSUVモデルの登場はトレンドとなって久しいが、まだ発表から4年目という最新モデルでもあるF-PACE。「やっぱりどうしても他の人とは違うところを攻めて行きたかったですからね。もちろんその上でクールに仕上げられるクルマが大前提で探した結果、このクルマに行き着きました。まだ製作してからそんなに経ってないのですが、どうしても譲ってほしいという人が現れて、現在は次のオーナーの手に渡っているのがちょっと心惜しいですけどね」。ホイールは本来10JでのラインナップだったFORGIATOのRDB-Mだったが、特注で9Jサイズを用意するこだわり。フィニッシュはゴールドで、ボディカラーとのマッチングも抜群だ。クロームのトリムやエンブレムはすべてブラックアウトされており、エンブレムのみキャンディークローム。このディテールに至るまでのこだわりもまたプロショップのスタッフならではのものといえる。

